

授業科目名	病態治療学 I		担当講師名	非常勤講師 6 名					
対象学年	1		単位－時間数	1－30					
授業目的	神経機能（末梢神経、中枢神経機能）、運動機能の疾患についての病態と診断と治療について学ぶ								
授業目標及び概要	<ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経系の疾患についての病態と診断と治療が理解できる ・末梢神経系の疾患についての病態と診断と治療が理解できる ・骨・関節系の疾患(小児整形含む)についての病態と診断と治療が理解できる ・筋肉・神経筋接合部の疾患についての病態と診断と治療が理解できる 								
授業展開	内容								
月日	時間	系統	主な疾患及び病態	検査	治療	授業方法	教科書		
11/15	2	脳神経	脳卒中(脳梗塞、脳出血)	神経学的検査 自律神経機能検査 脳脊髄液検査 X線検査 CT MRI 脳波 筋電図	薬物療法 血漿交換療法 理学療法	講義	A		
11/29	2		パーキンソン病 筋委縮性側索硬化症 クロイツフェルト・ヤコブ病 筋ジストロフィー						
11/11	2		多発性硬化症 認知症						
11/25	2		感染症(脳炎・髄膜炎) 脊髄損傷 てんかん						
12/9	2		末梢神経系疾患 (ギランバレー症候群・顔面神経麻痺・自律神経失調症)						
11/15	2		脳血管障害			脳血管撮影 CT MRI 頸動脈エコー		手術療法 理学療法	講義
11/29	2		脳脊髄液の異常						
12/6	2		脳動脈瘤						
12/6	2		頭部外傷						
12/6	1		脳腫瘍						
1/8	2	運動器	骨粗鬆症 大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折 腰椎脊柱管狭窄症、脊椎骨折 脱臼 捻挫・打撲	X線撮影 関節鏡 脊椎造影	保存療法 手術療法 理学療法	講義	B		
1/15	2		脊髄損傷 関節リウマチとその類縁疾患						
1/21	2		脊椎関節炎 変形性関節症						
1/28	2		骨腫瘍及び軟部組織 脊髄腫瘍						
1/29	2		ロコモティブ症候群と運動器不安定症						
2/5	2		廃用性症候群						
/	1	試験							
教科書	A: 系統看護学講座 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院 B: 系統看護学講座 運動器 成人看護学⑩ 医学書院								
参考書	ナーシンググラフィカ リハビリテーション看護 成人看護学⑤ メディカ出版								
評価の方法	ペーパーテスト								
メッセージ	医師として実務経験のある講師が教授いたします。 解剖生理を復習しながら、疾患の症状・病態・検査・診断・治療を学んでいきましょう。								

授業科目名	病態治療学Ⅲ		担当講師名	非常勤講師 5 名			
対象学年	2		単位－時間数	1－30			
授業目的	呼吸機能と循環機能の疾患の病態と診断と治療について学ぶ						
授業目標及び概要	主な呼吸器疾患、循環器疾患についての病態と診断と治療が理解できる						
授業展開	内容						
月日	時間	系統	主な疾患及び病態	検査	治療	授業方法	教科書
／	2	呼吸器	炎症性疾患 (気管支炎・肺炎・間質性肺炎 ・胸膜炎) 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患 肺循環障害 肺結核 気胸 腫瘍(肺癌・中皮腫)	喀痰検査 X線検査(断層・CT) 動脈血ガス 内視鏡検査 肺機能検査 ツベルクリン反応 胸腔穿刺 血液検査	薬物療法 癌化学療法 放射線療法 呼吸器リハビリテーション	講義	A
／	2						
／	2						
／	2						
／	2						
／	2						
／	2	循環器	先天性心疾患 虚血性心疾患 心筋症 心不全 心タンポナーデ 不整脈 炎症性疾患 弁膜症 大動脈瘤 大動脈解離 高血圧 ショック	心電図 (負荷心電図を含む) 心エコー 心音図 心臓カテーテル検査 心拍出量の測定 動脈静脈圧測定	心臓カテーテル法 経皮的冠動脈形成術 (PCI) 薬物療法 血栓溶解療法 大動脈内 バルーンパンピング (IABP)	講義	C
／	2						
／	2						
／	2						
／	2						
／	2					講義	B
／	2						
／	2						
／	2						
／	2						
／	1	試験					
教科書	A:系統看護学講座 呼吸器 成人看護学② 医学書院 B:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 C:系統看護学講座 循環器 成人看護学③ 医学書院						
参考書	「病気がみえる」シリーズ メディックメディア						
評価の方法	ペーパーテスト						
メッセージ	医師として実務経験のある講師が教授いたします。 解剖生理を復習しながら、疾患の症状・病態・検査・診断・治療を学んでいきましょう。						